



動労千葉の呼びかけ、三里塚・芝山連合空港反対同盟の協賛による「80年代を闘う労働者懇談会」は2月16日千葉市・労働者福祉センターにおいて開催された。会議は13時30分から20時30分に至る長時間を、各戦線で闘う労働者からの熱気にあふれた発言があいつぎ、一一八労働団体二九八名という予定をはるかに上回る大結集によって、圧倒的な成功をかちとった。



戦闘的労働運動の主軸となろう！

1 関川委員長あいさつ！

「懇談会」は動労千葉・吉岡教宣部長、全金本山労働組合・菅井両氏を座長に進められた。まず、よびかけ人を代表して動労千葉・関川委員長より「2月1日の第一回準備会での討論をさらに深化させ、『3・2三里塚労働連帯、80春闘勝利、80年代を闘う全国労働者集会』の圧倒的成功へ結びつけ、同時に3・30三里塚現地闘争の大高揚をかちとってゆこう。

そのような闘いの中からこそ労働運動の右翼的再編統一策動を打ち破り戦闘的労働運動の再生をかちとることも可能となる。

われわれは80年代戦闘的労働運動の主軸とならなければならない」という決意をこめたあいさつが行われた。

3・30三里塚現地へ！

1 反対同盟・北原事務局長！

続いて協賛団体である反対同盟・北原事務局長から「三里塚は永い闘いの中で、日共や革マルをはじめとする多くの裏切りと敵対に対決しつつ闘い抜いてきた。物とり主義と選挙闘争にだけうつつを抜かす党派や労働組合にいつまでも幻想をもっているのは、激動の80年代にあって労働者・人民の未来を切り拓く闘いはできない。

いまこそ新しい潮流を創造する時である。反対同盟はそういう闘う労働者との連帯・共闘なしに三里塚を勝利することができないことを身をもって経験してきた。

動労千葉が組織をかけて三里塚に連帯してきたことに反対同盟ははっきりと応えてゆく決意であり、今日の労働者懇談会が、そういう動労千葉の闘いを先頭に労働運動の闘う潮流を創り出してゆくという決意で開催されることを心から喜んでいる。

反対同盟は3・30現地闘争を総力で闘う決意です。動労千葉をはじめここに結集した全てが3・30に結集してほしい」と「懇談会」に対する期待と共に闘う決意が表明された。

三里塚を闘う労働運動の構築

1 中野書記長基調提起！

「懇談会」は動労千葉と反対同盟からの決意に燃えたあいさつで一気に引き締められ、その中で動労千葉・中野書記長からの基調提起が行われた。中野書記長は第一に三里塚労働連帯、第二に戦闘的・階級的労働運動の構築という視点から労線統一問題とこの間の労働運動の総括と展望にかかわる問題点について、鮮明に方向性を明らかにしていった。

「80年代にあって、三里塚を不鮮明にした労働運動はあり得ない。今こそわれわれの出番である。この労働者懇談会は戦闘的階級的労働運動の潮流を目指すものであり、80春闘を目安に機関紙の発行その他、具体的な取り組みを開始してゆきたい」という基調提起は満場の拍手で確認された。

熱気あふれる闘争報告

1 全国の職場・生産点からの報告！

続いて三菱長船労働組からのメッセージが紹介され、各職場・生産点からの報告と問題提起に移っていった。

国労、全電通、政労協、全通、教組、東大演習林職組、都職労、NHK、不二屋労働組京浜支部、私鉄、三八青婦協、出版労働者連帯会議、出版・中央公論社争議団、全石油・スタンダード労働組からそれぞれの産別や地域や争議団の報告が行われ、続いて「労働基準法改悪」「職業病」についての課題と闘いの報告が行われた。

そして夕食休憩の後沖縄からの特別報告として全軍労、自治労、沖縄電通の仲間から生々しい闘いの報告が行なわれ会場全体からの熱烈な拍手がこれにこたえていった。

さらに、動労前副委員長・中江昌夫、「懇談会」の呼びかけ人でもある全造船石川島分会・佐藤芳夫委員長、全金本山労働組・中野書記次長の各氏からの特別発言を受け、討論に入った。

討論の中では全港湾大阪、山谷統一労働組、ゼネ石労組、全通空港支部、出労連、労働連からの発言が行われ、最後に動労千葉・布施組織部長からの集約発言をもって7時間を超える懇談会を終った。

この「2・16懇談会」の圧倒的成功をもって「3・2、80年代を闘う全国労働者集会」の成功へ向けた取り組みをさらに強化してゆこう。

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！

労働運動の新しい潮流を！

2.16 労組活動家懇談会へ118 労組・団体、298名結集！